**技術・家庭科学習指導案（令和４年１月５日版）**

３項目の頭をそろえる。

（右インデントで調節可能）

※均等割り付けは使用しない。

実践集録も同じ形式とし、学習指導案に「７　成果と課題」を付け加える。

ここのみ12ポイント。

MSゴシック太字

**第３学年技術・家庭科（家庭分野）学習指導案**

日時：令和３年10月29日（金）

９：40～10：30

書　式：A4版４枚程度、上下左右の余白は2.5㎝程度、40字×55行程度を基本とする。（変更可）

字　体：本文はMS明朝体。（MSP体は1文字の大きさが異なるので使わない。）

タイトルや頭に番号を持つ行はMSゴシック太字

ポイント：基本は10.5ポイント。表中は９ポイントまで落としても可

その他：かっことその中の数字は半角･･･例(1)

　　　　文章中の１桁の数字は全角、２桁以上は半角･･･例５月20日

　　　　アルファベット２文字以上の語句は半角･･･例ICT、OPP、Ｂ(3)

：学習指導要領の解説に準ずる。･･･例　○見いだし　×見出し

　　　　　　　　　　　　　　　　　　 ○見付け　　×見つけ

○もつ　　　×持つ

指導者：〇〇市立〇〇中学校

教諭 〇〇　〇〇

指導学級：３年１組33名

題材名と題材を貫く課題を併記する。

明朝太字〈〉山括弧、Ｂ全角、 (3)半角

※ハイフンは付けない。×Ｂ－(3)

**１　題材名「家族や地域の人々と協力・協働しよう」**

**〈Ａ(3)ア(ｲ)、イ〉**

**題材を貫く課題「これからのわたしは家族や地域とどのように関わっていけばよいだろうか。」**

記号の○を使う。×漢数字の〇

題材の目標・・・生徒の立場の記述。学習指導要領を参考にする。

技術分野は題材の難易度を示す。

**２　題材の目標**

○　家庭生活と地域との相互の関わり、高齢者などの地域の人々と協働する必要があること、介護など高齢者との関わり方について理解する。　　　　　　　　　　　　　　　　 　　（知識及び技能）

　○ 高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。　　　 　　　　　　　　　　 　　　　　　　　　　　　 （思考力、判断力、表現力等）

　○ 地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、地域との関わりについて、課題解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（学びに向かう力、人間性等）

題材の目標・・・生徒の立場の記述。学習指導要領を参考にする。「題材を貫く課題」を解決することで、生徒が身に付ける資質・能力（題材目標・目指す生徒像・求められている結果）を記入する。４・５の評価規準との整合性を図ること。

目標の書き方で。

〇（知識及び技能）→目標

×（知識・技能）→これは評価。

★変更★

従来の指導目標（教師の立場）ではなく、「題材を貫く課題」を解決することで、生徒が身に付ける資質・能力（題材目標・目指す生徒像・求められている結果）を記入する。４・５の評価規準との整合性を図ること。

★変更★

従来の指導目標（教師の立場）ではなく、「題材を貫く課題」を解決することで、生徒が身に付ける資質・能力（題材目標・目指す生徒像・求められている結果）を記入する。４・５の評価規準との整合性を図ること。

★変更★

従来の指導目標（教師の立場）ではなく、「題材を貫く課題」を解決することで、生徒が身に付ける資質・能力（題材目標・目指す生徒像・求められている結果）を記入する。４・５の評価規準との整合性を図ること。

・番号、記号は１２…、(1)(2)…、①②…,アイ…、(ｱ)(ｲ)…の順とする。

・１①アは全角、(1)(ｱ)は半角文字。

・１①アの次は全角、(1)(ｱ)の次は半角の空白にする。

生徒観は主観ではなく、アンケート調査等に基づいて踏まえ（実施人数、実施時期を入れる）、育みたい資質・能力について述べ、そのための指導の手立てについて記述する。既習事項や他教科との関連について触れ、生徒の習熟の様子について述べるのもよい。指導に関係する生徒の実態。（×明るく元気で・・・）

**３　題材設定の理由**

★変更★

目標はこの書き方で

★変更★

目標はこの書き方で

★変更★

目標はこの書き方で

**(1) 生徒観**

授業前の生徒へのアンケート調査結果（３年生215名、５月実施）によると、高齢者と 同居している生徒は８％と少なく、核家族世帯が多いことが分かった。また、日常的に家族以外の高齢者と交流しているという生徒は13％と少なく、交流の内容は挨拶を交わす程度が83％、地域の祭りに参加が38％、公民館活動に参加が10％、地域の清掃活動に参加が４％である。高齢者以外の地域の人々との関わりを見てみても、「よく交流している」と答えた生徒は13％と少数であった。さらに、地域に暮らしている一員として、「地域に役立っている」と感じている生徒は７％と低く、現在の中学生は学業や部活動が忙しく、地域の人々との交流が希薄になっていることが伺える。

これまでの学習で生徒は、協力・協働の見方・考え方を働かせながら、自分の成長と家族・家庭生活の関わり、幼児の生活と家族など、中学生として家族とどのように関わっていけばよいかということを中心に学びを進めてきた。幼児との触れ合い体験学習では、準備・計画・実践を通して幼児の心身の特徴や関わり方を学びながら課題解決学習を行うことができた。高齢者など地域の人々とは、職場体験学習や総合的な学習の時間で高齢者施設を訪問したり、「勝山フェスティバル」や地方祭等の公民館行事で関わりを持ったりすることはできている。そこで、さらに高齢者など地域の人々との関わり方を考え、協力・協働するために自分たちができることを考えさせていきたい。

この題材でどのような力を生徒に身に付けさせ、なぜその題材を選択したのか、社会情勢や生徒の周囲の環境、置かれている状況等を踏まえて述べる。

題材を貫く課題を設定した理由を入れる。

例　これらのことから、題材を「○○」と設定し、題材を貫く課題を「・・・」とした。

**(2) 題材観**

少子高齢化・核家族化が進み、地域の中で人間関係が希薄になっている現代社会において、様々な立場の人々との関わり方を考え、協働する際に配慮すべき内容や注意事項を知り、実際に関わる経験をするための題材を取り上げることは意義深い。このことから、題材を「家族や地域の人々と協力・協働しよう」とし、題材を貫く課題を「これからのわたしは家族や地域とどのように関わっていけばよいだろうか。」と設定した。

　　 本題材では、中学生の自分が地域の一員として、どのようなことに気を付けて行動すれば、高齢者など地域の人々とよりよく関わり、協働することができるかを検討する。既習事項や自分の生活経験と関連付けながら地域の生活の中から問題を見いだし、課題を設定し、適切な解決方法を考え、具体的な計画を立て、実践する。実践の評価については地域の方々から直接助言をいただき、よりよい方法を考え、改善を検討する。さらに、この経験を踏まえた上で、協力・協働の視点から家族や地域の人々との関わりについて考えることで、工夫し創造する実践的な態度が育成できると考える。

「本時の指導」の目標ではないので気を付ける。「２　題材の目標」を受ける部分で、ぶれがないように特に注意する。「５　題材の指導と評価の計画」との整合性にも気を付ける。

指導観の中に、「～の見方・考え方を働かせて…」入れる。題材を貫く課題にからめて記入するとよい。

**(3) 指導観**

協力・協働の見方・考え方を働かせ、高齢者など地域の人々と関わる際に具体的にできることを考えさせる。

中学生にとって、高齢者の身体的な特徴や生活上困っていること、不安に思っていることなどを理解することは難しい。そこで、高齢者疑似体験で高齢者の身体的特徴を体感させたり、アンケート結果を提示して高齢者の実際の声を聞かせたりすることで、理解を深めさせる。（生徒を育てる段階）

また、自分の生活が地域との関わりや支えがあったからこそ成り立っていることに気付かせ、地域の一員として今の自分にできることを考え、工夫することで、自分達中学生はこれからの地域社会を支えていく人材であることを意識させたい。（生徒が育つ段階）

題材の終末では、これまでの学習を振り返らせ、パフォーマンス課題を実施する。地域行事である「勝山フェスティバル」に、より多くの人々が参加しやすい行事にするための改善案を考えさせ、地域のために自分ができることを工夫し創造し、実践しようとする態度を養いたい。（生徒が伸びる段階）

　 本時の指導に当たっては、課題解決に向けての実践報告や話合いを通して、他者と意見交換しながら互いに実践内容を深め合わせたい。話合いの際には「高齢者など地域の人々の立場や状況を考えた内容であるか」「中学生と一緒に活動できる内容であるか」という視点を提示し、見方・考え方の意識化を図る。他班からの意見や、ゲストティーチャーからのアドバイスを受けることで改善点を話し合い、ホワイトボードに明記し、思考の可視化を図る。授業後は「いきがい交流センターしみず」を通して地域の人々に発信し、地域との連携を図ることの意義に気付かせ、パフォーマンス課題への意欲化につなげたい。

題材全体を三つの段階に分け、その指導内容についてまとめる。「（生徒が育つ段階）」等を明記する。

他の内容との関連があるなら、題材観か指導観に入れておくとよい。例　住生活の学習で防災を学んできたことをその後地域との協働に生かす　等

↑最後に本時のみの指導に関することを入れてもよい。

指導観に「～の見方・考え方を働かせて・・・」入れるとよい。

他の内容との関連があるなら、題材観か指導観に入れておくとよい。例　住生活の学習で防災を学んできたことをその後地域との協働に生かす　等

「題材を貫く課題」にからめて記入するとよい。

↑最後に本時のみの指導に関することを入れてもよい。

指導観に「～の見方・考え方を働かせて・・・」入れるとよい。

他の内容との関連があるなら、題材観か指導観に入れておくとよい。例　住生活の学習で防災を学んできたことをその後地域との協働に生かす　等

「題材を貫く課題」にからめて記入するとよい。

↑最後に本時のみの指導に関することを入れてもよい。

指導観に「～の見方・考え方を働かせて・・・」入れるとよい。

他の内容との関連があるなら、題材観か指導観に入れておくとよい。例　住生活の学習で防災を学んできたことをその後地域との協働に生かす　等

「題材を貫く課題」にからめて記入するとよい。

↑最後に本時のみの指導に関することを入れてもよい。

指導観に「～の見方・考え方を働かせて・・・」入れるとよい。

他の内容との関連があるなら、題材観か指導観に入れておくとよい。例　住生活の学習で防災を学んできたことをその後地域との協働に生かす　等

「題材を貫く課題」にからめて記入するとよい。

本時の指導の中に、「見方・考え方の意識化」や「思考の可視化」という言葉を使う。

最後の段落で本時のみの指導に関することを入れてもよい。書き出しの例　本時の指導に当たっては～

「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）の巻末資料の「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考に記入する。（従来のように丸写しではなく、変えて構わない。関連する内容が複数ある場合は合体させる。）

複数ある場合は、箇条書きにする。

**４　題材の評価規準**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解している。 | 高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について問題を見いだして課題を設定し（→①）、解決策を構想し（→②）、実践を評価・改善し（→③）、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている（→④）。 | 高齢者など地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、地域との関わりについて、課題解決に主体的に取り組んだり（→①）、振り返って改善したりして（→②）、生活を工夫し創造し、実践しようとしている（→③）。 |

「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）を参考に作成

技術分野は、指導の流れ順で①～の番号を記入

家庭分野は、①～④の内容別で表す。　「知識・技能」は、内容によって数は様々。

「思考・判断・表現」は、①～④の4種類。これが次の「３題材の指導と評価の計画」で具現化されることになる。

「主体的に学習に取り組む態度」は、①～③の３種類。同じく、「５題材の指導と評価の計画」で具現化されることになる。

家庭分野の場合、ねらいの文末はほとんどが「～できる。」とする。詳細は「指導と評価の一体化のための～」を参考にする。

技術分野は、知識・技能　説明できる　～できる

思考力等　　～できる

態度　　　　～しようとしている

（題材の最後　～していこうとしている。）

**５　題材の指導と評価の計画（全５時間）**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ○ねらい | ・学習活動 | 時間 | 評価規準：おおむね満足(評価方法) | | | 段階 |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に  取り組む態度 |
| ○家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かる。  ○高齢者など地域の人々と協働する方法について、課題を設定することができる。  ○介護など高齢者との関わり方について理解することができる。 | ・「いきがい交流センターしみず」でのアンケート調査結果から、地域に即した問題点を挙げ、課題を設定する。  ・体験的な活動を通して、高齢者の身体の特徴や介助の方法についてまとめる。 | １ | ①家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることについて理解している。  ②介護など高齢者との関わり方について理解している。  (ワークシート) | ①高齢者など地域の人々との関わりについて問題を見いだして課題を設定している。  できれば、題材を貫く課題の設定を、最初に行うとよい。  (ワークシート) | 三つの段階を入れる。矢印は、図形の斜線を使うとよい。 | 生徒を育てる |
| ○高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について計画を考え工夫することができる。 | ・高齢者など地域の人々との関わりについて防災、消費生活、日常生活分野において課題を解決するための計画を立てる。 | １ | 表中の(　)は半角で。書式は全てMS明朝 | ②高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について計画を考え、工夫している。  (ワークシート) | ①高齢者など地域 の人々との関わりについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。  (行動観察)  (ワークシート) | 生徒が育つ |
| ○高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について計画を実践することができる。 | ・計画を基に、高齢者の困り事を解決するための実践を行う。  (ポスターや動画、パンフレット等の作成) | １ |  |  |

本時を太字で囲む。

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ○高齢者など地域の人々と協働する方法について、実践を評価したり改善したりして、自分にできるよりよい関わり方を考え、論理的に表現することができる。 | ・実践報告会を開き、話し合う。  ・他者の意見や新たな情報により、実践内容の検討をする。  ・地域のために自分ができることを考える。 | １（本時）  0.5 | （本時）を入れる。 | ③高齢者など地域の人々と関わり協働する方法について、実践を評価したり改善したりしている。  (ワークシート)  ④課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。  (ワークシート) | ②高齢者など地域の人々との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。  (ワークシート)  (OPPシート) | 生徒が育つ |
| ○幼児から高齢者まで、地域の人々がよりよく生活するために、自分にできることを考え、提案できる。 | ・パフォーマンス課題に取り組む。 | １ |  | ①～④地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。  (パフォーマンス課題) | ③地域のために自分ができることを考え、工夫し創造し実践しようとしている。  (パフォーマンス課題) | 生徒が伸びる |

「その他の評価方法」は、５題材の指導と評価の計画で記載しているもの以外で評価するものを記入する。

〔パフォーマンス評価について〕

題材ごとにパフォーマンス評価を一つ以上行う。その際、パフォーマンス課題とその予備的ルーブリックを設定する。

**〔パフォーマンス評価について〕**

|  |  |
| --- | --- |
| パフォーマンス課題 | その他の評価方法 |
| 地域の代表的な公民館行事の一つである「勝山フェスティバル」を、さらに地域の多くの方に喜んで参加してもらう行事にするために、生徒会に改善案を提出することになりました。幼児から高齢者まで、地域の人々が喜んで「勝山フェスティバル」に参加するための具体的な方法を考えて提案しなさい。その際、「いきがい交流センターしみず」のアンケート調査結果を参考にし、地域の実態に合わせた具体的な提案をすること。 | ○実践報告  ○ワークシート  ○OPPシート  この通り記入する。フォントもこの通りに（８pt） |

**〔パフォーマンス課題の※予備的ルーブリック〕**※指導後、実際の生徒の反応や結果に応じて修正する。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| Ａ | 地域の実態を踏まえ、幼児の特徴や高齢者の生活上の問題点を考慮しながら課題を設定している。  地域の実態を踏まえ、幼児や高齢者の立場で解決方法を具体的に考え、論理的に表現することができる。 | 地域の人々と協働しようとし、よりよい生活の実現に向けて工夫し創造し実践しようとしている。  地域の一員として自分にできることを具体的に提案し、生活を工夫し創造し実践しようとしている。 |
| Ｂ | 地域の実情から課題を設定し、解決方法を考え、論理的に表現することができる。 | 地域の一員として自分にできることを提案し、生活を工夫し創造し実践しようとしている。 |
| Ｃ | (支援)アンケート結果や既習事項を振り返らせながら、解決方法を考えるように助言する。 | (支援)既習事項や各自の生活を振り返らせ、解決方法を考えるよう助言する。 |

Ａ：題材終了までに到達させたい理想的な状態

この通り記入する。フォントもこの通りに（ＭＳ明朝８pt）Ａ、Ｂ、Ｃは全角で。

Ｂ：題材終了までに到達させたいライン

Ｃ：Ｂに至らない生徒への具体的な支援の方法

知識・技能は入れない。パフォーマンス課題ではこれまでに身に付けてきた資質・能力をどう活用しているかをみるため、思考・判断・表現と主体的に学習に取り組む態度を評価する。

学習課題は疑問形にする。その解がねらいの達成となるはずである。

パフォーマンス課題の設定とルーブリックの作成

①　題材の途中、または最後に、パフォーマンス課題を設定する。

②　「見方・考え方」は「題材を貫く課題」に対応している。パフォーマンス課題で「見方・考え方」を育てたり、生徒の変容を見取ったりする。→資質・能力を見取る。

③　パフォーマンス課題の※予備的ルーブリックを作成し、生徒の学習改善と教師の指導改善につなげる。

※「予備的」というのは、指導後に実際の生徒の反応や結果（レポートの内容等）に応じて修正するため、「予備的」という言葉を使っている。ルーブリックに具体的すぎる内容や数値的な内容は書かない。（×10品目以上の食品を使った献立を考えている。）

時数をこの通りに入れる。

**６　本時の指導（４／５時間目）**

**(1) 学習課題**

地域の一員として、高齢者など地域の人々のためにできることは何だろうか。

**(2) 目標**

　 ○　高齢者など地域の人々と協働する方法について、実践を評価したり改善したりして、自分にできるよりよい関わり方を考え、論理的に表現することができる。

**(3) 準備物**

ワークシート、ホワイトボード、大型テレビ、パソコン、OPPシート、各グループの作成資料

５のねらいをそのまま入れる。

（ねらいを作成するときに評価規準との整合性に気を付けておく。目標なので、文末は評価と同じではない。）（×～している）

「分かる」･･･学習課題が分かる、課題の解決の方法が分かる、作業の手順が分かる　等

「考える」･･･問題を見いだす、課題の内容について考える、課題の解決の方法を考える、今後どうすればよいのか考える　等

「実行する（×実践する）」･･･考えたことを発表する、グループ活動等をする、製作を行う、ワークシートに記入したり、OPPシートに記入したりする　等

○学習課題を二重線で囲む。

★新設★

○「本時の【見方・考え方】」を具現化したものを、文章表記する。

○フィードバックは点線の矢印で記入する。（なくてもかまいません。）

**(4) 展開**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学習活動(形態) | 時  間 | 学習の流れ | | | | | | | | | ○指導の工夫  ●評価(方法) |
| 分かる | | | 考える | | | 実行する | | |
| １ 前時の学習を振り返り、学習課題と学習方法を確認する。 　　 (一斉)  ２ 実践報告会を開き、話し合う。  (1) 各班の実践を発表する。  (グループ)  (2) 改善点を話し合 い、発表する。  (グループ)  　　　 　　　 ↓  (全体)  基本は個人→グループ→全体  右寄せで入れる。(　)は半角。  ３　本時の学習のまとめをする。  　 　 (一斉)  「まとめ」…本時の課題に対する答え、結論。必ず全員が共有すること。  ４ 本時の学習を　 振り返る。 (個人) | ３    35    (15)  (20)  ７  ５ | テキストボックスがあとで移動しやすい。  前時を振り返る。 | | | | | | | | | ○前時までの学習を振り返らせることで、高齢者の身体的特徴や日常生活における問題点を確認させる。  ○多面的・多角的に考えさせるために相互に質問やアドバイスを多く取り上げる。  ○清水地区の社会福祉団体の方々、県の消費生活アドバイザーをゲストティーチャーに招き、専門家のアドバイスをもらうことで、より具体的かつ有用な実践になるように改善させる。  ●高齢者など地域の人々と関わり協働する方法について、実践を評価したり改善したりしている。  (思③ワークシート)  ●課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。  (思④ワークシート)  評価計画の評価規準に合わせて知、思、態と①～の番号を記入する。  ○中学生も地域社会を支えていく人材であることを再確認させるために、自分自身ができることを考えさせる。  ●高齢者など地域の人々との関わりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。  (態②ワークシート・OPPシート) |
| 学習課題は二重線で囲む | | | | | | | | |
|  | 地域の一員として、高齢者など地域の人々のためにできることは何だろうか。 | | | | | | |  |
|  | | | | | | | | |
|  | 班ごとに発表をする。 | | | | | | |  |
| 防災 | 日常生活 | | | 消費生活 | | |
| ・危険箇所のマップ作り  ・避難経路、避難方法の確認 | ・ゴミ分別やゴミ出しボランティア  ・買い物の配達サービスや移動販売の紹介 | | | ・被害にあわないための情報提供  ・キャッシュレス決済の情報提供 | | |
|  | | | | | | | | |
|  | ゲストティーチャーの話を聞き、実践を改善する。 | | | | | |  | |
|  | | | | | | | | |
|  | | | | 他班の意見やゲストティーチャーのアドバイスを受けてどう改善するか考え、発表する。 | | | |  |
| |  |  |  | | --- | --- | --- | | 防災 | 日常生活 | 消費生活 | | ・共に防災訓練を行うことが大切。  ・避難時に声掛けを行うために日頃から挨拶等を行う。 | ・気軽にボランティアできるように交流を深める。・最新情報を分かりやすく伝える工夫が必要だ。 | ・被害の実状を分かりやすく伝え、対策を一緒に考える。 | | | | | | | | | |
|  | 高齢者など地域の人々のために自分自身ができることを考え、発表する。 | | |  | | | | |
|  | | | | | | | | |
| OPPシートを記入し、本時を振り返る。  点線内は、出させたい生徒の反応や意見。（まとめにつながるような学習課題に対する解。）  ・日頃のコミュニケーションが大切だ。  ・地域行事には積極的に参加しよう。  ・再度危険個所を確認したいな。 | | | | | | | |  |
| 【見方・考え方】 | 「協力・協働」の見方・考え方を働かせ、自分が地域の一員として高齢者など地域の人々と共にできることを考え、地域の課題の解決を図る。  ・挨拶や声掛け、地域行事への参加を通しての交流  ・高齢者など地域の人々がよりよく生活できるような情報提供・発信の工夫 | | | | | | | | | | |

「振り返り」…学びの成果を実感させ、自己の変容に気付かせる。共有する必要はないが、よいものを発表させることで多面的・多角的な視点を得ることにもなる。

本時に働かせたい「見方・考え方」を具現化し、文章で表記する。

１　学習形態について

　「一斉」･･･教師が一斉に学習を進めていく場面を指す。学級全体に問いかけたり説明したりする。

　「全体」･･･グループで得た思考や技能を全体の場に持ちだし、グループとグループあるいはグループと個人の間で更に練り合い、確かめ合う場面に使用する。

　「個人」･･･1人で考えたり、作業をしたりする場面に用いる。

　※一般的には、「個人→グループ→全体」の流れを基本とし、突然グループ活動が入ることはない。ただし、前時や家庭での課題など、何らかの準備があった場合はかまわない。

２　目標やねらい、評価について

**「２題材の目標」→「３(3)指導観」→「５題材の指導と評価の計画」→「６本時の指導(2)目標、(4)展開の評価）**が一貫してぶれることなく、順番に進むにつれて具体的になるように考える。

３　表記について

**６(4)展開**　中の文章は、文には句点「。」を付ける。体言止めのものには付けない。

例「学習活動」など

【注意点】